

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：23401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K21109

研究課題名(和文) グローバル化における『狩猟採集民』と『農耕民』関係の再考

研究課題名(英文) Rethinking the current relationships between "hunter-gatherers" and "farmers"

研究代表者

加藤 裕美 (Kato, Yumi)

福井県立大学・学術教養センター・准教授

研究者番号：10646904

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はマレーシアにおける『狩猟採集民』と『農耕民』関係について再考することを目的とした。マレーシア、サラワク州のブラガを中心にフィールドワークを行うことにより、狩猟採集民が定住後、数十年がたった現代における関係性を再考した。その結果、定住した狩猟採集民と農耕民を巡る関係はより複雑化し多様化していることが明らかになった。その背景にあるのは、キリスト教の普及活動、婚姻関係の多様化、町居住の増加、賃金労働の多様化、土地争いや開発補助金など新たな状況によるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

狩猟採集民と農耕民の関係については、先行研究で植民地時代における狩猟採集民と農耕民のパトロン-クライアント関係について報告されている一方で、1980年代以降は、政治化された森における狩猟採集民と政府の関係など、森林伐採をめぐる闘争に焦点が当てられてきた。そのため、狩猟採集民と従来から共存してきた隣人との関係については等閑視されている。そこで、本研究では、現代的状況における、定住した狩猟採集民と他民族集団がどのような関係を持っているのかや、日常生活における民族間関係のなかでアイデンティティがどのように意識されるのかを再考した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to reconsider the relationship between "hunter-gatherers" and "farmers" in Borneo. Fieldwork was conducting in Belaga District, Sarawak, Malaysia. The relationships between settled hunter-gatherers and farmers became more complicated and diversified. Christianity, the diversification of marital relations, the increasing number of people living in towns, the diversification of wage labor, land conflicts and development subsidies affected the new relationships.

研究分野：文化人類学

キーワード：マレーシア ボルネオ島 民族関係 社会変容 狩猟採集民 農耕民

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ボルネオには、約2万5000人の狩猟採集民がインドネシアとマレーシア、ブルネイの3か国にまたがって居住している。彼らの多くは1960年代前後に定住し、現在では焼畑農耕などの農業に従事している人が多い。なかには町に居住し、定職についていたり、ムスリムになっていたりする人々もいるため、彼らは定住した狩猟採集民、あるいは元狩猟採集民といえる。現在、元狩猟採集民の生活環境は多様であり、ムスリムになっていたり、公務員になっていたりする人もいる。また、ボルネオでは1980年代以降、森林伐採やダム開発、プランテーション開発によって補償金が支払われ、それを足掛かりに車や家を購入し、都市部で生活を始める人々もいる。森に暮らさない元狩猟採集民が増えるなか、現在の生活における元狩猟採集民と他民族集団との関係性については、再考が必要である。

2. 研究の目的

狩猟採集民と農耕民の関係については、先行研究で植民地時代における狩猟採集民と農耕民のパトロン・クライアント関係について報告されている一方で、1980年代以降は、政治化された森における狩猟採集民と政府の関係など、森林伐採をめぐる闘争に焦点が当てられてきた。そのため、狩猟採集民と従来から共存してきた隣人との関係については等閑視されている。

そこで、本研究では、現代的状況における、定住した狩猟採集民と他民族集団がどのような関係を持っているのかや、日常生活における民族間関係のなかでアイデンティティがどのように意識されるのかを再考することを目的とした。

3. 研究の方法

研究の方法は、文献調査と現地調査を行った。文献調査は、狩猟採集民の民族間関係を扱ったものを中心に行った。現地調査では、マレーシア、サラワク州のブラガを中心に、ピントゥルや、クチンにおいても行った。さらに、比較として、インドネシアのカリマンタンも訪した。

4. 研究成果

(1)2015年度の研究成果

文献調査では、ボルネオ社会に関する文献資料、人類学におけるエスニック・アイデンティティ研究の文献を収集し、主として理論面での研究を進めた。マレーシア・サラワク州で、都市部に居住する内陸部出身の、クニヤ、カヤン、シハン、プナンなどの複数の民族集団出身者を対象に現地調査を行った。調査では、都市部における社会関係の築き方について参与観察とインタビューをおこなった。その結果、都市部においても内陸部でみられた社会関係を継続している事例が観察された。一方、若い世代では様々な民族集団と日常的にオープンな関係を形成していることが明らかになった。

ボルネオの内陸先住民コミュニティに、フィリピン人やインドネシア人などの外部者が取り込まれるプロセス、そして外部者がコミュニティにもたらす社会的インパクトについて第49回日本文化人類学会で発表した。この学会では、分科会「多元的結合と下からの共生 - アジアにおける移民・難民の視点から」において、タイ、日本、アメリカなどさまざまな移民社会を対象とした研究者と事例を比較検討し、議論した。また、第11回国際狩猟採集社会会議では、現代的な状況における狩猟採集民の狩猟活動の位置づけとアイデンティティの関係について研究成果の報告を行った。この会議では、ボルネオで研究をする海外の研究者と研究結果の解釈について有意義な議論を行うことができた。その他、国内で開催された複数の学会や研究会に出席し情報収集を行った。

都市部に暮らす若い世代の間で、どのようにエスニック・アイデンティティの揺らぎがみられるのか、また、都市部で育った子供たち世代が、どのようなエスニック・アイデンティティを形成していくのか、は重要な論点である。

(2)2016年度の研究成果

近年、ボルネオ島の内陸部ではBorneo Evangelical Missionの宣教活動が再び始まっている。ブラガにある教会では、定住した狩猟採集民は、カヤン、ダンジョンといった他民族集団と一緒に活動し、他の地域の教会や村を訪問する機会が増えている。マレーシア・サラワク州ピントゥルとブラガで現地調査を行い、教会での行事を通じてシハンがどのようにカヤンやクニヤなど近隣の人々と関係性を構築しているのか、観察とインタビューを行った。教会活動を通じて築かれる、より開かれた関係性が明らかになった。

9月には、インドネシア・北カリマンタン州にて現地調査を実施した。カヤン・ウル郡およびカヤン・スラタン郡の複数のケニヤの村を訪れて、農耕民の側から見た狩猟採集民との関係史について聞き取り調査を行った。また、北カリマンタン州マリナウ市において定住した狩猟採集民であるプナン・マリナウやプナン・アプットに口承史や言語について聞き取り調査を実施した。東カリマンタン州サマリダ市近郊のスンガイ・クンジャン地区においては、マハカム川上流域から都市に働きに出ているプナン・トゥブ、リスム、ブケットの人々に都市での生活と村の歴史、

言語についてインタビューを行った。今後重要となる協力者やインフォーマントを見つけることができた。また、現地の大学を訪問し、地元の研究者と協力関係を築いた。

(3) 2017 年度の研究成果

2017 年度は、サラワク中央部における「狩猟採集民」と「農耕民」の社会関係について、マレーシア・サラワク州の複数の村落を訪れて現地調査を行った。特に狩猟採集民の村落におけるインドネシア人などの外部者との関係を明らかにした。文献調査として、ボルネオ研究読書会を組織し、8 回の読書会を開催した。近年刊行されたボルネオに関する重要な英文書籍の精読を通して、研究動向を検討した。

研究成果のうち、狩猟採集民の村落におけるインドネシア人居住者との関係について『マレーシア研究』より論文を刊行した。定住した狩猟採集民が持つ他民族集団に対する認識について、現地雑誌 Ngingit より論文を刊行した。また、定住した狩猟採集民ブカタンと農耕民イバンの歴史的な関係を考察し、同じく現地雑誌 Ngingit より論文を刊行した。

(4) 2018 年度の研究成果

マレーシア・サラワク州ラジャン川上流において現地調査を行った。狩猟採集民シハンの集落を中心に、おなじく狩猟採集民であるプナン・ブラガンとの歴史的な関係について聞き取り調査を行った。また、周辺の農耕民であるカヤン、シカパン、クジャマンなどとの婚姻関係や擬家族関係についてインタビューを行った。2018 年 8 月には、ブラジル・ベレンで開催された第 16 回 International Society of Ethnobiology Congress において口頭発表を行った。マレーシアとインドネシアの狩猟採集民と農耕民における野生動物の狩猟について研究成果を発表した。10 月には、日本文化人類学会北陸人類学研究会においてマレーシアの狩猟採集民シハンの社会性について研究成果のまとめを口頭発表した。また成果の一部を日本文化人類学会北陸人類学研究会ニューズレターに掲載した。さらに、マレーシア・ラジャン川流域における狩猟採集民と農耕民が観光に関わるプロセスについて福井県立大学公開講座で講演を行った。

(5) 2019 年度の研究成果

2019 年度は、研究成果のまとめと執筆、刊行を中心におこなった。マレーシア、サラワク州における狩猟採集民と農耕民の狩猟方法の違いについて、英文書籍を刊行した。これは、プナン、カヤン、ブキタン、イバン、クニヤなど、サラワク中央部における複数の民族集団の狩猟について、生態環境や社会環境との相関関係を分析したものである。生態環境の指標として、二次林、アブラヤシ・プランテーション、アカシア・プランテーションなどによって、狩猟頭数や狩猟動物がどのように異なるのかを考察した。また、社会環境として、都市からの距離や、村外労働有無、猟師の人数などによって狩猟結果がどのように異なるのかを分析した。分析結果は、ブラガ郡のシハンやシカパンなどの狩猟方法と比較を行った。

また、ブラガ町とピントゥル市におけるシハンと、カヤンや華人、マレー人などとの婚姻関係について、2019 年 9 月にポーランドで開催された、国際人類学民族科学連合で研究成果を発表した。「狩猟採集民」と「農耕民」の民族関係は、都市部においてより平等でオープンな関係を築く可能性がある。関係性の相違が生まれる背景を 2 つの地域から考察した。

東南アジアにおける狩猟採集民と農耕民の狩猟活動について、丸善出版から刊行された日本語の書籍に執筆した。フィリピン、インドネシア、タイなどで行われている狩猟を文献調査からまとめ、マレーシアボルネオ島での狩猟対象、方法などと比較した。また、マレーシア、サラワク州における狩猟採集民と農耕民の民族関係について、同じく丸善出版から刊行された日本語書籍に執筆した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 加藤裕美	4. 巻 28
2. 論文標題 福井在住インドネシア人のネットワーク	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文化人類学会北陸人類学研究会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 加藤裕美	4. 巻 6
2. 論文標題 サラワクのロングハウス社会におけるインドネシア人移住者との共住	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 マレーシア研究	6. 最初と最後の頁 71-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kato, Y. Samejima, H., Ichikawa, M	4. 巻 10
2. 論文標題 Trans-river migration of the Iban and the Bekatan to the Tatau River Basin in Bintulu	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ngingit	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yumi Kato	4. 巻 9
2. 論文標題 Perceptions of Iban in the Sihan ethnoscape	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ngingit	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yumi Kato	4. 巻 94
2. 論文標題 Resilience and flexibility: history of hunter-gatherers' relationships with their neighbors in Borneo	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies 94	6. 最初と最後の頁 177-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yumi Kato	4. 巻 -
2. 論文標題 Spiritual relation between animals and Sihan hunters in Borneo, Malaysia	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Paper submitted for the Proceedings of the 15th Congress of International Society of Ethnobiology, edited by Christine Kabuye. Makerere University.	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yumi Kato	4. 巻 -
2. 論文標題 Inter-ethnic relation of Sihan with neighboring ethnic groups	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Paper submitted for the Proceedings of the 13th International Borneo Research Council Conference, edited by Anton Rahmadi. Mulawarman University.	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Soda, R., Kato, Y., Hon, J.	4. 巻 182(4)
2. 論文標題 The diversity of small-scale oil palm cultivation in Sarawak, Malaysia	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Geographical Journal	6. 最初と最後の頁 353-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/geoj.12152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤裕美	4. 巻 11
2. 論文標題 当事者の視点から世界を読み解く楽しさ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都大学白眉センターだより	6. 最初と最後の頁 11-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤裕美	4. 巻 なし
2. 論文標題 シハンと言霊	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 西本希呼編「科学で旅する世界 - フィールドワークの現場から」株式会社春日	6. 最初と最後の頁 77-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 ボルネオ島の森林開発と少数民族の生活変容
3. 学会等名 学術教養センター2019年度第2回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 マレーシアの熱帯雨林と少数民族の文化
3. 学会等名 福井県立大学公開講座ケンダイ・ワールド・ツアー第1回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Kato
2. 発表標題 Interaction of Sihan with other ethnic groups in Belaga town, Malaysia
3. 学会等名 International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 2019 Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Kato
2. 発表標題 Trend and factors of wildlife trade in Malaysia and Indonesia
3. 学会等名 16th Congress of International Society of Ethnobiology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 マレーシアの狩猟採集民シハンの社会性
3. 学会等名 日本文化人類学会北陸人類学研究会第148回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 様々な形のエコツーリズム
3. 学会等名 福井県立大学 公開講座 『観光学の基本』第5回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 カルチャーツーリズムの魅力
3. 学会等名 福井県立大学 公開講座 『観光学の基本』第4回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yumi Kato
2. 発表標題 Women's Lifestyle Change and Transmission of Knowledge: Rattan Handcraft in Borneo
3. 学会等名 Annual Research Meeting of Hakubi Center (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 インドネシア人のマレーシアへの越境と現地家族の形成
3. 学会等名 第2回「ミクロヒストリーから照射する越境・葛藤の共生の動態に関する比較研究」研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 サラワクにおけるインドネシア人労働者の需要と現地化
3. 学会等名 日本マレーシア学会第25回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yumi Kato
2. 発表標題 Inter-ethnic relation of Sihan with neighboring ethnic groups
3. 学会等名 The 13th International Borneo Research Council Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yumi Kato
2. 発表標題 Spiritual relation between animals and Sihan hunters in Borneo, Malaysia
3. 学会等名 15th Congress of International Society of Ethnobiology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yumi Kato
2. 発表標題 Unsettled life and contemporary mobility of Sihan hunter-gatherers in Malaysian Borneo
3. 学会等名 Inter-Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yumi KATO
2. 発表標題 Hunting for subsistence? : Sihan 's hunting practice between tradition and modern way of life
3. 学会等名 11th Conference on Hunting and Gathering Societies (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 加藤裕美
2. 発表標題 マレーシアにおけるインドネシア人移住労働者の多元的結合と共同性の創出
3. 学会等名 日本文化人類学会第49回研究大会. 分科会「多元的結合と下からの共生 - アジアにおける移民・難民の視点から」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Sakai, S., Choy, Y. K., Koizumi, M., Kishimoto-Yamada, K., Takano, T., K., Ichikawa, M., Samejima, H., Kato, Y., Soda, R., Ushio, M., Saizen, I., Nakashizuka, T., Itoioka, T.
2. 発表標題 Variation in the use of ecosystem services by local people in Borneo: Social and ecological factors
3. 学会等名 Japan Geoscience Union Meeting (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yumi KATO
2. 発表標題 Application of Knowledge to New Environment: Anthropological View
3. 学会等名 Annual Research Meeting of Hakubi Center (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 加藤裕美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 Pp. 62-89
3. 書名 「食べられる肉/食べられない肉：ボルネオ・シハンにおける食肉概念の曖昧さと多義性」野林厚志編『肉食行為の研究』	

1. 著者名 加藤裕美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 Pp. 252-253
3. 書名 「ブルネイ」 『サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで』	

1. 著者名 加藤裕美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 Pp. 270-283
3. 書名 「森のキャンプ・定住村・町をまたぐ狩猟採集民 - ボルネオ、シハンの生活世界」池谷和信編 『狩猟採集民から見た地球環境史 - 自然・隣人・文明との共生』	

1. 著者名 加藤裕美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 Pp. 11-45
3. 書名 「生物多様性と文化多様性による観光 マレーシア・サラワクの伝統工芸品」山崎茂雄編 『世界の工芸と観光 手しごと・美しさ・豊かさ』	

1. 著者名 加藤裕美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 Pp. 262-263
3. 書名 「サラワク州の民族」信田敏宏編 『東南アジア文化事典』	

1. 著者名 加藤裕美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 Pp.130-131
3. 書名 「狩猟」 信田敏宏編 『東南アジア文化事典』	

1. 著者名 Kato, Y., Langub, J., Abdullah, R. A., Samejima, H., Soda, R., Uchibori, M., Okuno, K., Ishikawa, N.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 Pp.85-109
3. 書名 Multiethnic society of central Sarawak: An ethnographic analysis. N. Ishikawa and R. Soda (eds.) Anthropogenic tropical forests: human nature interfaces on the plantation frontier	

1. 著者名 Kato, Y., Samejima, H.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 Pp. 277-313
3. 書名 The effects of landscape and livelihood transitions on hunting in Sarawak. N. Ishikawa and R. Soda (eds.) Anthropogenic tropical forests: human nature interfaces on the plantation frontier	

1. 著者名 Kato, Y., Soda, R.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 Pp. 337-356
3. 書名 The Impact of RSPO Certification on Oil Palm Smallholdings in Sarawak. N. Ishikawa and R. Soda (eds.) Anthropogenic tropical forests: human nature interfaces on the plantation frontier	

1. 著者名 Soda, R., Ishikawa, N., Kato, Y.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 Pp. 315-335
3. 書名 From river to road? Changing living patterns and land use of inland indigenous peoples in Sarawak. N. Ishikawa and R. Soda (eds.) Anthropogenic tropical forests: human nature interfaces on the plantation frontier	

1. 著者名 Soda, R., Kato, Y.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 Pp. 357-374
3. 書名 The Autonomy and Sustainability of Small-Scale Oil Palm Farming in Sarawak. N. Ishikawa and R. Soda (eds.) Anthropogenic tropical forests: human nature interfaces on the plantation frontier	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>福井県立大学教員情報 https://www.fpu.ac.jp/faculty_members/d152545.html Researchmap http://researchmap.jp/read0132728/</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考